

|                           |             |                                               |
|---------------------------|-------------|-----------------------------------------------|
| えんぼとたんぼの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | 会 報 第 197 号 | 2017年12月25日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：原谷 一誠 |
|---------------------------|-------------|-----------------------------------------------|

### 1. 活動報告（事務局 記）

- 12月7日（土）餅つきの場所は、明日の雨予報に対応するため、2階の講堂としました。  
床にブルーシートを敷いて、テーブルと敷き紙を用意しました。バーナー、釜、せいろ、餅つき器などを用意しました。参加者は、17名と山大生1名でした。  
洗米は地元会員により午後に行い、講堂のテラスに設置されました。  
準備の後で、役員会議を行い、来年度の行事計画を話し合いました。
- 12月10日（日）餅つきは雨予報のため、二俣瀬ふれあいセンターの2階講堂で行いました。地元の会員は、8時過ぎには集合し、もち米を蒸して、準備万態です。9時より挨拶があり、すぐに餅をついて、全員で丸めていきました。順序良く進み、予定よりも早く終わることができ、皆さん喜んで帰られました。  
親子自然観察隊は、今年の行事も終わり、解隊式も行いました。  
参加者は、二俣瀬子ども会39名（親17名、子22名）、親子自然観察隊38名（親17名、子21名）、厚東川中学校10名（生徒9名、先生1名）、JA1名、二俣瀬小学校長、宇部市部長、センター長、山大生1名、厚東川中校長、北部支援センターの岡崎さん、地域会員奥様2名、会員23名の合計119名でした。
- 12月23日（土）維持活動の作業は、田んぼの堆肥散布と湿地草刈り・須賀河内川ヨシ刈りででした。その後で、懇親会をして来年度の行事計画などを話し合いました。参加者は、14名でした。今年度の行事はこれで終了ですが、皆様良い年をお迎えください。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎来訪者  
予定はありません。
- ◎行 事  
— 1月7日（日）正月休み  
— 1月20日（土）維持管理・エコアップ

### 3. 来訪者の声

- 今回はありません。

#### 4. 会員の声 「親子自然観察隊の将来について」 (管 哲郎 記)

今年も12月の収穫祭、解隊式をもって1年間の行事を無事終了いたしました。隊員のご父兄には“ご苦労様でした”の思いです。1年間を振り返りますといろんなことが思い起こされます。一つ一つを取り上げることは差し控えますが、1年間を通して各行事に参加していただいたことがうれしく思い出されます。お子達のためにご多忙な時間を割き、参加いただいたご父兄には感謝いたします。

親子自然観察隊をできる限り充実した行事に発展させたいと考えてはいますが、新しく入会された隊員のことを考えますと、ついついこれまでの内容でいいだろうと考えてしまいます。同じメンバーで何年も続く行事であれば、毎年違った内容でのイベントに仕上げますが、3年生から6年生までは3年間しかありません。従って従来通りの内容で推移してきました。

現在、宇部市は環境省や文部科学省の勧めもあり、「持続可能な青少年健全育成化プロジェクト」(ESD)を推進しています。具体的には「宇部市焼却場」、「宇部市水道局」や「アクトビレッジ小野」などの施設を利用し、宇部市の小学校に年1回の環境教育を行っています。この度「ビオトープ」にても環境教育を行ってはどうかとの計画がなされ、観察隊にも打診されました。

いずれ、観察隊の子供たちにも参加を促され、ESD教育に協力することになるかもしれません。但し、隊員たちの行うことはこれまでと全く変わりませんが、「ESD環境共生プロジェクト」のメンバーが教育内容を指示しお願いすることになると思われます。宇部市より要請され観察隊隊長である管もプロジェクトのメンバーに加入させられました。そのような理由で恐縮ですが観察隊の皆様にはぜひご協力をお願い致します。

親子自然観察隊は隊長である管ができる限り継続し行っていく予定ですが、古希(70歳)を過ぎるといつまで続けられるか保証ができません。子供たちと自然とをつなぐ「親子自然観察隊」が末永く継続できるよう、後継者の育成が急務です。もちろん、その前に「ビオトープ」の存在が不可欠です。後継者がなければ「親子自然観察隊」は自然消滅いたします。

発展し続ける文明社会に対し、「地球環境を見直そう」という世界的な運動も目にし耳にするようになりました。「ビオトープ」や「親子自然観察隊」の活動も文明社会の憩いの場としてますます必要な環境になってくると確信いたします。“ビオトープをつくる会”は事実上“縁の下力持ち”です。しかし各イベントには参加されても、維持作業には全くと言ってよいほど参加がありません。このままではいずれビオトープは消滅するでしょう。

未来を担う子供たちに「ビオトープ」のフィールドを提供していきたいと考えます、どうか、皆様のご協力を切に願うばかりです。来年度には「田植え」や「稲刈り」の付属作業として、隊員にも“草刈り”や“害虫駆除”のお手伝いを考えています、強制ではありませんが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

親子自然観察隊の皆さま、よいお年をお迎えください。

#### 5. 親子自然観察隊 「収穫祭・解隊式」 (管 哲郎 記)

収穫祭、解隊式の12月10日は雨の予報となり、前日の準備作業は初めて公民館の2階を借りて準備が進められました。幸いにも当日は曇り空で雨は降りませんでしたが、外は寒く、部屋の中はあったかくて寒さに震えることなく快適に収穫祭と解隊式を行うことができました。参加者も120名ほどと多く、準備されたスリッパが不足するというハプニングもおこり、一部の参加者は靴下だけで参加していただき、本当に申し訳なく思いました。

限られた部屋でのおもち作り作業でしたので、ほぼ全員が作業に加わったこと、寒さに震えることなく快適に作業できたようで、いつも以上に早くお餅が出来上がりました。おかげで今回のお餅の出来具合はいつもに比べ大変良くできたように思われました。

解隊式は10:30過ぎに始まり「皆勤賞」7名、「優秀賞」2名、「努力賞」7名と「参加賞」が残り全員に渡され、無事解隊式を終えました。

解隊式を終えたのち、来年度の継続参加を希望されたご家族もおおり、ありがたく登録させていただきました。

毎年のことながら、餅つきに携わる裏方の方々のこと、寒い屋外での作業であり、さらに冷たい水に腕をさらしての作業は大変です。この場をお借りし御礼申し上げます、ご苦労様でした。



収穫祭の挨拶



おもち作り、手袋、マスク、キャップと完全装備です



搗かれたお餅



解隊式の様子

### 親子自然観察隊の感想

#### ★金子 玲子 (母)

「餅つきの感想」 室内での餅つきは天気心配もなく良かったです。例年のように寒さの中での餅つきも季節感を感じられ良いと思います。

「一年を通しての感想」 中学生の娘と野草・田植え・沢登り・お餅つきの行事に参加でき、自然の中での活動を楽しむことができました。

娘は天ぷらのお手伝いやお餅のパック詰めのお手伝いも喜んでできるようになり成長を感じました。毎回の活動の準備などいつもありがとうございました。

#### ★有吉遼

観察隊ではめったにできないような脱穀や野草とり、みんなでするしめ縄作りや餅つきなど、疲れても楽しく、うれしい気持ちになりました。来年もぜったい参加したいです。

#### ★有吉さん(母)

観察隊の活動は毎月とても楽しみにしていました。子供は自然の中にいると本当に生き生きしていますね。自分の生活を見直すよいきっかけにもなりました。

★橋本さん

春から、自然観察隊員として活動出来、家族共々、本当にお世話になりました。母である私は、田舎で育ちで、田植えや稲刈りの経験はしてきたものの、子供に体験をさせたことがなく、探していたところ、宇部日報で、募集されてることを知り、応募しました。ビオトープの環境は、本当に素晴らしいと思います。沢山の方々がずっと守られている自然の中で、貴重な体験が出来たなど、本当に申し込んで良かったなと思ってます。特に、3年生の弟は、初めてことだらけで、田植えは特に、ヌルヌルした田んぼに入るだけで、悲鳴をあげていましたがだんだん慣れてくると、楽しんでいました。でも、その声に、皆さん、優しい言葉をかけてくださいました。欠席した日もあり残念でしたが、毎回自然のことへの色々な気付きがいっぱいありました。今の子供達、自然の中で体験することはとても大切なことだと思います。でも、親子で一緒に参加出来たことは、本当に良かったです。沢山の人数なのに、準備も大変だろうなと思いつつも、毎回、お昼もしっかりいただいて帰りました。しかも、参加料がこんなにかからないのは、探してもないのでは！と、思います。毎回、美味しかったです。ごちそうさまでした。上の子は、6年生で最後でしたが、来年シニアで来られてもいいと言われ、嬉しかったです。最後の餅つきも、地域の方々も一緒に出来て、良かったです。不参加もあったのに、観察隊員に参加賞用意されていて、子供達もまた、喜んでいました。来年また、参加したいと思っています。大変、お世話になりました。

★平野耀大「ビオトープの体験」

僕は、この一年間のビオトープの活動で、貴重な体験をたくさんしました。まず一つ目は野鳥の観察です。山里周辺や、厚東川の両側を観察している時に、「イワツバメ」という種類の鳥が橋の下に巣を作っていました。その「イワツバメ」は山の中など、人がたくさん暮らす場所には居ないのですが、偶然見る事が出来て嬉しかったです。二つ目は、水生生物の観察です。観察をする一週間前から、どんな魚が捕れるのだろうと楽しみにしていて、当日は、行く前からはしゃいでいました。そして、網と虫かごを持って川に入って分かった事は、水生生物と「コオニヤンマ」特性です。魚を捕ろうと網で、川の中を探しても魚が捕れず、川底の土を網でかき回していると、たまたまそこに、「コオニヤンマ」のヤゴが捕れました。なので、家に帰って、「コオニヤンマ」の事も図鑑で調べ、「コオニヤンマ」の特性を知ることが出来ました。僕はこの一年間、ビオトープでの活動に参加する事で、生き物のすごい所をたくさん知ることが出来ました。ビオトープの活動はとても楽しかったので、また参加したいです。

★川口颯太

今年も楽しかったです。特に沢登りが良かったです。

★川口さん（母）

いつも楽しい企画をしていただきありがとうございます。普段は慌ただしく生活をしていて、あまり自然に触れる機会がないので、親子自然観察隊での体験はとても貴重でした。

★宮本さん（母）

お餅つきは、できたて熱々のお餅が次から次へと連続で届き、手のひらが真っ赤になり、粉まみれになりながらも、大きさが不揃いではありますが◎頑張って丸め、親子共々楽し

くいい思い出になりました。4月から普段できない経験をたくさんさせていただき、子どもなりにいろんな事を考え学び、興味が広がったように思います。来年は中学生になりますが、この経験を生かして、いろんな事を探究追究してほしいなと思います。毎回準備やご指導くださる方のお陰で、素敵な経験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。お世話になりました。そしてありがとうございました。

## 6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

### (24) オオキンカメムシ *Eucorysse grandis* (Thunberg)

#### 半翅目 キンカメムシ科

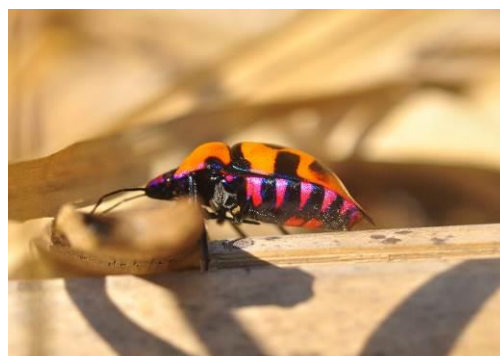
本州、四国、九州、沖縄地方に分布する大型のカメムシで、大きさは20mm～25mm前後で赤（朱色）の体に黒い模様が入っており、胸は光の当たり具合で虹色の光沢をしている大変美しいカメムシです。背中模様は個体差があり少しずつ変化が見られます。

6月～10月に活発に動き回りますが、越冬しますので、雪の降る寒い日でもツバキやシロダモ、ミカンの葉の裏で越冬する個体を観察することができます。夏場はアカメガシワなどの葉にもつきますし、低山地や平地の海辺の林などでよく見かけられますが、どこにでも見られるわけでもなく県内での生息域は限定されているようです。

幼虫は「アブラギリ」の葉を食べるといわれていますが、筆者はまだ確認できていません、山陽小野田市の海岸の林で生息しているのを確認しています。



オオキンカメムシの集団



美しい色のカメムシ



12月24日、気温  
マイナス 1.5℃



雪の日に葉裏で越冬するオオキンカメムシ

## 7. 会よりの連絡事項

- 1、溜池土手・湿地帯河川側がイノシシや水漏れで崩れています。今後修復作業を頻繁に行うようになります。
- 2、新入会員の紹介  
森 尚子さん、常盤動物園勤務、宇部市東岐波在住

## 8. 編集後記

いよいよ、2017 年も押し迫っています。今年も悪い出来事、良い出来事を含め、様々なことがありました。水車が動かなくなったこと、24 時間テレビでの活動等々。エコアップに関して色々な出来事がありましたが、特に印象的なことは以下の二点です。

悪い出来事から言えば、カヤネズミが少なくなったことです。初冬に確認できる巣の個数で推定するしかないのですが。一昨年の初冬は、巣の痕跡が 15 個程度見つかり、稲刈りの際には子育て中の巣も見つかりました。今年も湿地帯で探しましたが、2 個見つかっただけです。当初は草を刈る時期がまずかったのではないかと考えていましたが、減少数が多いことを考えると、これが原因ではない様です。

良い出来事とは、多くのミズアオイ（環境省レッドリストでは準絶滅危惧種）が見られる様になったことです。昨年までは、2～3 株程度しか見られませんでした。今年は湿地帯下流部で群落状になっていた他、湿地帯のあちこちに見ることが出来ました。しかし、なぜ今年になって急に増えたかはわかりません。来年どうなるかが、楽しみです。

今年のビオトープの変化について少しだけ述べました。残念なことに、これらのことについて気付いておられる会員はあまりおられない様です。私もビオトープが良い方向に向かっているのか、それとも逆なのか今のところ解かりません。ただし、常に変化していることは事実です。この変化を楽しんでいこうと思っています。皆様もどうでしょうか。

（ 前田 歳朗 記 ）